2026年8月5日 発行
たけとよこどもレポーター

夏休みとくべつきかく　こども広報を作ろう！ 2026

たけとよこども広報



特集

はじめての役場たんけん！ 役場のお仕事で“まち”がささえられていた？

８月５日、小学４～６年生６人が「こどもレポーター」として武豊町役場に集まりました。ぎじょうを見学したり、福祉課・防災交通課・ぎかいじむきょくのしょくいんや、町長へのインタビューにちょうせんしました。役場の仕事は窓口だけではなく、給食センターやゆめプラなどのしせつの管理も行っていると知り、みんなびっくり。まちのくらしは、見えないところでたくさんの人にささえられていることが分かりました。





しゅざいレポート①



福祉課　「ありがとう」がやりがい

福祉課では、くわこさん・岡田さん・加藤さんにインタビュー。岡田さんは「高れい者の役に立ちたい」という思いで役場のお仕事をえらんだそうです。

いちばん大変なのは、住民の命にかかわることで、いそいで対応しなければならないとき。反対に「窓口を出るときにえがおで帰ってもらえること」「住民からありがとうと言われること」がうれしいと教えてくれました。

しゅざいレポート②



防災交通課　火事にも種るいがある！？

防災交通課では、防災むせんで「こちらは広報たけとよです」の声をしている宮川さんに、防災交通課のお仕事や、熊本じしんや能登半島じしんの、ひさいちしえんについて、インタビューをしました。

火事には、たて物がもえる「たて物火さい」と、くさなどがもえる「かれくさ火さい」があることを、はじめて知りました。また、普段からできる「ぼうさい対さく」として、ばんそうこう、ふえ、れんらく先メモなどを入れた「ぼうさいポーチ」を持ち歩くのがおすすめだそうです。



スペシャルインタビュー

町長にインタビューしました！



▲ 町長との集合写真

こどもレポーターが町長に聞いたインタビューの一部をごしょうかいします

Q. まちづくりで大切にしていることは？

A.「役場だけでなく、町民や地元きぎょう・だんたいと一緒に、50年後・100年後もつづく、まちをつくりたい」

Q. 仕事の楽しいこと・大変なことは？

A.「まちが変わっていくじっかんや、町民から『ありがとう』と言われることがうれしい。大変なことは、反ぱつが、よそうされても、町のしょうらいのために必要な決だんをしなければならないこと。」

Q. 武豊町のみりょくは？

A.「町民の人がやさしいこと！武豊のさんぎょうをささえる工場やけいもみりょくです」

こどもレポーターの気づき



「保育園の先生も役場のさいよう試験を受けて決まるなんて知らなかった！」「火事に種るいがあるなんて知らなかった」「むかし、武豊町に海水よく場があったことを聞いてびっくり！」など、たくさんの発見がありました。役場の仕事は、わたしたちの生活のすぐそばにあることが、よく分かった一日でした。

当日の様子
Youtube

この広報紙は、こどもレポーターがしゅざいしてつくりました。